

## 2021年の緊急地震速報の発表状況 および長周期地震動予測情報の開始について

気象庁 地震火山部 地震火山技術・調査課 伊佐見薫、川岸純一郎

### 1. 2021年の緊急地震速報の発表状況

2021年に発表した緊急地震速報（予報）は860事例、うち緊急地震速報（警報）は11事例であった。

緊急地震速報（警報）を発表したが震度5弱以上を観測しなかった空振り事例は3事例あり、いずれも観測した最大震度は4であった。震度5弱以上を観測したが緊急地震速報（警報）を発表しなかった見逃し事例は2事例あったが、最大震度5弱を観測した観測点とともに（国研）防災科学技術研究所や自治体が管理する震度計であり PLUM 法に使用しておらず、緊急地震速報の処理に問題はなかった。

緊急地震速報の精度指標であるスコア値は92.2%であり、比較的高い精度となった。2021年は、緊急地震速報の予報および警報ともに、概ね適切に情報発表できた。

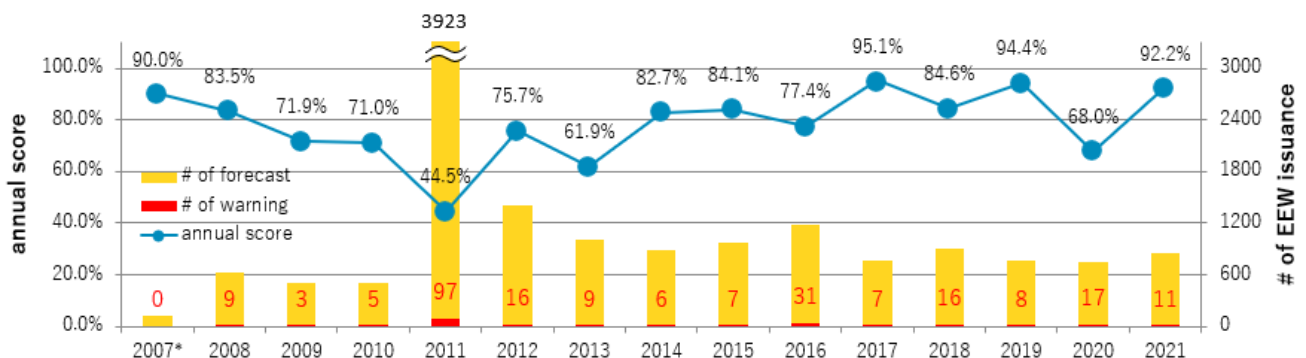


図1. 緊急地震速報の予報と警報の発表回数およびスコア値（震度4以上を観測または予測した地震について、その地域予測震度が震度階級で地域観測最大震度の±1階級以内であったものを適切な予測とした場合の的中率）の年別推移

### 2. 長周期地震動予測情報の開始

気象庁では、長周期地震動による強い揺れが予測される場合にも緊急地震速報（警報）を発表するために、緊急地震速報の発表基準に長周期地震動階級に基づく基準を追加し、令和4年度後半から運用する予定である。

緊急地震速報（警報）について、発表・更新基準を追加し、長周期地震動階級3以上が予測される場合にも緊急地震速報（警報）を発表する。また、緊急地震速報（予報）の内容に長周期地震動の予測結果を加えた緊急地震速報（地震動予報）を新規電文として発表する。

長周期地震動の予測については、(国研)防災科学技術研究所による Sva 距離減衰式(Dhakal et al., 2015)を使用する。

気象庁では今後、令和4年度後半の運用開始に向けた準備や周知広報を行っていく予定である。